



子どもたちのことばを豊かに育てるために

この夏は、オリンピックとポケモンGO!の話題でもちきりでした。「金メダルを獲った!」「惜しい試合だった!」との話もふくらんだオリンピックに比べ、ポケモンの方はわいてきたように黙々とスマホを片手に街を歩く若者の姿に、ゲームもここまで来たかと感心するとともに異様なものを感じました。

そこに人と人との会話や交流がどれだけあるのでしょうか。

国語教育研究科の大村はま氏は、ことばの大切さを次のように述べています。

昨今のテレビを見ていると、本当に日本語の語彙が貧弱になっているなど悲しくなります。

ことばは、自分の心を伝え、相手の心を知るためにどうしても必要なものです。ですから、それが豊かであるということは、人間として、とても素晴らしいことでしょう。

自分のことばを豊かにする、磨くことは、生涯、心がけていくべきだと思っています。

大村はま「灯し続けることば」(小学館)より

それでは、子どもたちの言葉を豊かに育てるためにはどうすればよいのでしょうか。

元NHKアナウンス室長の山根基世氏は、公開シンポジウムの中で、一つは「音声言語」に親しむことと「日常の話言葉」の教育であると述べています。

人間は生まれてから8歳ぐらいまでは、言語を獲得する時期だが、その間に周囲の人の言葉を聞かない限り、言語を獲得することもできなければ、人間としての声の出し方も獲得できない。

1920年、インドの山奥でオオカミに育てられた少女(8歳ぐらい)が発見された。その後牧師夫妻に大切に育てられるが、言語形成期にオオカミに育てられたので、最後まで人間としての言葉は生涯獲得することができなかった。だから言語形成期の間に周囲の大人の言葉を聞いておくことはとても大切なことである。その時期に大人が子どもに与える影響はとても大きいし、大変重い責任がある。

山根氏らが、子どもの言葉を育てる活動の中で、「朗読や読み聞かせ(読み語り)」を重視している理由は、日本語の美しいリズム、日本語の美しい響きそして人間としての肉声のぬくもりを、幼い心に刻んでおきたいとの願いがあり。それが、生涯その子どもの言葉、生涯を支える言葉になっていくからだそうです。(「日常の話言葉」の教育の大切さについては紙面の都合上省略します。)

世の中の発達や進化には目まぐるしいものがあります。時代を担う子どもたちには、情報機器などをおおいに活用し生活を豊かにして欲しいと思います。しかし、その前に、人間として大切なものをしっかり身につけさせてやりたいものです。日々の生活の中で、温かい言葉で心を育てることができるのはゲーム機などではなく、家族や周りの大人たちなのです。

本校ボランティアによる読み聞かせ



日本語のよさや美しさを感じることができる子どもや、相手の気持ちを思いやる言葉の力を大切にできる子どもを、教師や保護者、地域が一体となって育てていきたいものですね。

5年生68名 協力の大切さを学んだ2泊3日の宿泊学習

宿泊学習で学んだこと 5年 田家 海凧

わたし達須賀川市立第二小学校5年生68名は、9月13日から3日間那須甲子青少年自然の家でいろいろな体験をさせていただきました。特に心に残ったのは野外炊飯でカレーを作ったことです。わたしは、かまどで火を起こすのは初めてでした、天気が悪かったので火がつくのか心配でしたが、校長先生がたくさん木を細かくさいてくださったおかげで、小さい木から大きい木へ火がもえうつって大きなほのおがあがりました。「すごい！」と思いました。みんなが協力したので、ご飯もカレーもおいしくできました。みんなの愛がつまった味がしました。また、私は副班長だったので、班長の体調が悪かった時に、代わりをしっかりとできたことも自分が成長したなと思いました。

この3日間で強く思ったことは、「協力し合えば何でもできる」ということです。学校に帰ってもわすれないで生活したいと思います。3日間たくさんの思い出ができました。



今年の5年生も立派でした。靴のかかどがしっかりとそろっていました。大切なことですね。

「はきものをそろえる」
はきものをそろえると心もそろう
心がそろうとはきものもそろう
ぬぐとときにそろえておくと
はくときに心がみだれない
だれかがみだしておいたら
だまってそろえてあげよう
そうすればきっと
世界中の人の心もそろうでしょう

二小の卒業生6名（須二中2年生、常松善君、川上佳乃さん、鈴木一徳君、半澤冬聖君、大河原涼君、滝田翼君）が21日（水）、職場体験に来ました。今後の中学校生活に生かしてほしいですね。

二小の職場体験を通して 二中 2年3組 鈴木一徳

前半省略 2つ目は、授業での教え方です。1つ目と同じように自分が生徒である時は授業の教え方など一切気にしていなかったけれども、立場が変わると全く違って、一つ一つの授業で教えるための工夫がとても感じました。その中でも、最後の道徳の時間で良く感じる事ができました。道徳の教え方では、教科書に沿って実際に体験させるような授業の工夫が多くありました。人助け役に分かれて実際にその場面をやったりしました。生徒を見ると楽しそうに集中して取り組んでいたのが、これが授業の工夫なんだなと思いました。

最後に、学んだことをこれからの将来に生かして、生徒を飽きさせない授業ができる教師になりたいと思いました。

